

プロレタリア通信

外 3号

一九二七年十月十五日
共産主義者同盟書記局

虐殺抗議ノベトナム侵略加担阻止ノ

10.21血の佐藤「のサイゴ」ノ入り抗議の嵐をノ

10.17虐殺抗議追悼中央葬」を

10.21斗争人の総決起集会として斗いとうろろ!

ハ目次

- (一) 10.17斗争の意義
- (二) 10.21斗争を全大衆の反政府斗争人発展させよ
- (三) 現情勢の特徴と10.21斗争の任務
- (四) 10.17虐殺抗議山崎君追悼中央葬と10.21斗争
- (五) 追悼葬をめぐる宛派斗争の問題点
- (六) 戦後社会電捜査について
- (七) ハスケツコル

10月17日(火) 於日比谷野音六時
「名刺」 (学生四時)

虐殺抗議山崎博昭君

追悼中央葬

「呼びかけ人」

樺 光子氏 他

実行委員会

全学連

東京地区反戦他

10月21日(土) 於明治公園

ベトナム反戦国際統一行動

(一) 10.17斗争の意義

全学連の同志諸君

10月13日、全国反戦の統一行動には、戦斗的労働者学生が日比谷野音を埋め尽くし、反戦、全学連全体の中心がクテモを中心とする戦斗的闘いとして実現された。

敵階級の巻き返しは猛烈なスルジョブ、キャンヤンと破防法適用、大量の事後逮捕、等々、大弾圧のドウカツにも拘らず、そして又、それは屈服した社会既成指導部の動機と裏切りにも拘らず、それら全体に対決し、のりこえて反戦、全学連の部隊が激なる結集を示し、突然とした闘いを展開したところから、10.17斗争の戦斗的意義があった。

全体の結集は、五〇〇〇を上回り(同盟のロフが、四〇〇〇枚では不足であった)、一〇〇〇〇名近い学生の前線の圧倒的部分を我々が保障したのである。

断固として保障している、ためである。

しかもこの斗争の重要な特徴は、その動員力に於いて端的に示されているように社青同と中核が着しく結集力を欠いていないことであり、政治組織として機能していないという事実であった。

それはまさしく、10.8斗争に対する政治的総括、現情勢の把握、10.21斗争人の方針を欠落させていることの結果であり、10.8斗争の生み出した巨大な事態に於て、それを発展させていくという革命党の任務に於けることが出来ぬ点を完全に暴露しているのである。

⑩、14の追悼集会
10.14全学連主催の追悼集会(秋中公園↓軒天橋)は三〇〇名の集会として実現された。(社青同五〇中核一三〇、一般大衆九〇)

この集会の特徴は、オニに、我々が13日の闘いに引き続き集会全体の責任を果したことであり、オニに、中核派は13日の闘いを果して、この日の集会に全力を等分したにも拘らず一三〇名だけしか結集しえなかつたこと、しかもオニモをやることに對し、日知っていること。

オニに、社青同は、ヒビの一人も来なかつたこと。オニに、我同盟同、秋本、北田(以上反戦関係)と赤崎の三政治局員を先頭に立てて、覺としての責任を果したのに対し、当の革共同は一人の政治局員も来なかつたこと。

オニには、この追悼集会に對して三〇〇〇名近い集會が設置され、羽田空港の四圍までもかき集められ、大々的な弾圧体制を布設したところがある。

この事実が、10.17斗争の革命的実行力、

この事実が、10.17斗争の革命的実行力、

ためには公開論争等大衆の面前にひきずり出して、大衆的に暴露すること、戦旗一ニ号の大衆販売の攻撃的姿勢によって日共をひきずり出してたゞくことが必要であることを意味している。

同志諸君、
又ルシヨアギマンパーンに日共指導部が公然と、連帯している赤旗と、日共下部大衆との間に矛盾が生じ始めている。

10、21斗争の任務を我々が果たすためには、この日共民衆との党派斗争が、同盟の緊急の任務とな、てい、この党派斗争を断固として押し進め我々の党派的影響力を一層に拡大し、いたるところにおいて日共を崩壊せよ、

(三) 10、17 追悼会 山崎博昭君追悼中央葬と同志諸君、

同志諸君、
山崎君の遺族抗議書は、

一に彼の斗いと死を追悼し
二に10、8斗争全体の意義を確認し
三に10、21斗争を中心とする今後の斗いへの、決意を明らかにすること、
と書いてない。

しかもこれら三点に集約される追悼葬の性格は、我々が先に確認した「現情勢の特殊性」によって、あるべきであることの出来ない重要性を持つてい、る追悼葬は、現時点の情勢(10、8斗争以降の階級斗争)とは無関係では、ありえないのであって、我々が「真空」の中においてこれを行うことは出来ないと、いうことである。

即ち、先の三点に集約された性格のものとして追悼葬を実現するということは、
一に、虐殺抗議という旗印を鮮明にかけやること
二に、又ルシヨアジの巻き返しに対する反撃の一環として追悼葬そのものを斗いとすることであり、
三に、まさに佐藤がカイゴに陥り立つ10月21日の斗いを組織し準備する一環として、即ち「10、21斗争に対する決起集会として斗いとらねばならぬ」ということである。

②、このような性格を与えられている追悼葬に対して、革共同中核派はどのような態度を示してきたのか

④、彼らは、昨日六時日比谷野音という線を自分達だけで打ち出し、単独で「文化人を主体とした国民葬」として行おうとした。ところが自派だけでは、いかに文化人の名前を連ねていても、とても日比谷を形がつけられないとみるや、たまたま、日中友好協会正統本部(中民派)が「10月18日に、人民葬をやるのはどうか」というのに飛びついたのである。

⑤、こうして、12日夜より、「日、中」を司会とし「フンド」を単共同、「社青解放派」、「社会学M」派、「中四インター」、「共党」それに「日中七団体」を加えた準備会議が始まった。

だが、この準備会は「どの様な性格のものとして追悼葬を行うのか」という点をめぐって、激しい

論争の場となったのである。

この論争は「人民葬か」「国民葬」かという名称問題と、主催(又は実行委員会)、呼びかけ人の「主体」を誰にするのか、という二点に集中されていた。12日「我々は、今時追悼葬の性格を前面に出すこと」によって「人民葬」を断固として主張し、中核派の「市民的国民葬路線を孤立化させていった。」(その結果として正式名称を「虐殺抗議山崎君追悼中央葬としたのである。)

⑥、「13日」ところがこのような事態に対し中核派はあくまでも「葬式は葬式」という小市民的国民葬路線に固執し自派の立場を有利にするために「全国自治会共闘」(構改革系学生組織)、社青同、革共同らの構改革組織を動員して、事前に「ラック」を組んできたのである。

そこで彼らは一斉に「全学連」を擁護し表面に立てるべきではない。文化人(例え、
「鶴見俊介」)を表面に立ててその下に国民各層を築める、ということを主張し始めたのである。

同志諸君、
これが10、8斗争の中で倒れた山崎君の追悼といえるべきであらうか。

10、8斗争の主体は、全学連、地区反戦である。この10、8斗争の主体であり、10、21斗争の主体となつていくべき組織をい、込めるといふことは、まさに又ルシヨアジのキャンパーンに屈服することであり、10、8斗争の意義に水を濁すようとするものであり、その中で斗い倒れた山崎君の意志をつぐことにはならない。

10、8斗争の主体が中心となつて、その周囲に広範なバトナム反戦意識を結集するという方針以外にはありえないのである。

⑦、こうして13日、14日、15日と連続した準備会議は「中核派」構改革系諸派の右翼スロツクと「フンド」社青同」を中心とする「日、中」その他左翼スロツクとの論争の場となり、その論争は「10、8斗争の総括、現情勢の位置づけ、10、21斗争と追悼葬との連関」をめぐるともなるざるを之をなかつたのである。

⑧、「15日」だがこうした中でこれまで「人民葬」を呼びかけ、そのまとの役(司会)を買って出てきた「日中正統本部」は、次の二つの理由のもとに司会と準備会議からおりてしまった。

その理由は、①呼びかけ人としては、「全学連」に反戦が当然主体となるべきであると考えて、また、め役を行ってきたが、その主旨はまよとめる自派がなくなってきたこと。②呼びかけ人とは無関係に種々な修正主義集団が出てきた事態に対し、これ以上同席出来ない、との二点であった。

(我々は、特に理由の②の点の様な問題については、「10、8斗争を闘」は部分は全て如之て追悼葬を行うべきである」と一貫して原則的主張を述べた。)

だが15日現在、日中関係の七団体がおけることによつて、「中核派」構改革系諸派の「蓋しは自派連

合の人々を二一が上ってきており追悼葬を、其の階級的な追悼葬にしていく点で重大な困難が立現している。

(F) だが、我々の任務は、オ一にあくまでも10、21斗争の成功であり、10、21斗争を、血の佐藤のサイコ入りに対する抗議の大家斗争として斗いとすること、そのために全大衆の反政府斗争として組織することである。

この基本任務を明確にさせた上で、その10、21斗争を準備する一環として、10、17中央葬を、まさに10、21に向けての決起集会として斗いとすることだけはならない。我々は、そのために、最後の瞬間まで努力しなければならぬ。

戦旗一一二号の駅頭前、学内大衆販売を興行しよう！

同志諸君！

戦旗一一二号(十月十五日)は、十月十三日に、いち早くすり上り、今やあらゆる処で爆発的売れ行きを示している。

10、13斗争は、集会の最後の数分間で百部。

10、14追悼会ですら、一三〇部(主として一般大衆)。

10月15日新宿駅頭では三〇〇部、10月16日(大学水戸駅)は二五〇部。

その他、中大、東大駒場寮らにおいて驚異的関心と売れ行きを示している。

「斗った部分の主張も聞いてみたい」これが、一般大衆の備らない気持である。

すべての地才において、すべての都内の駅頭において、すべての学園において、戦旗の販売を興行しよう！

(一)一ニ号は、八〇〇部ずつであるが、事情によつてはマスのりの体制をとる。

(四)戦旗社の不当な家宅捜査について。

10月16日朝六時、警視庁は10、8羽田斗争の証拠固めと称して戦旗社、中大をはじめ、前葉社、革マル全学連書記局、早大一文(革マル)、法政経済自治会(中核)の六ヶ所に機動隊四百を配置し、一斉に不当なる捜査に押しつけた。(三大デモは午前三時)

捜査は近來まれにみる執権の度を極めた。私服警官二十数名とワキ道に機動隊を配置し、証拠がためのありとあらゆる文書を点検し、戦旗社の二ツの金庫を不当にもぶつこめして、証拠物件が見つかからないとみるや証拠にもならない「共産主義」、八、九、十号の「パンクナバー」を押収するという不当な尋問にまで出たのである。しかも捜査時間に突

に三時間三十分をふいやしたのである。

へ前進社一時間二十分、革マル四十分、かつ中大学館には、地階から六階まで限なく捜査)

政庁局は、この執権が不当極まりない家宅捜査に断呼として対処し応酬した。

都内六ヶ所に対する同時捜査といい、三時間半にのぼる捜査といい、この警視庁の大がかりな取りくみ

は、十、八斗争におびえた佐藤の番犬の姿を赤裸々

に写し出したものである。

フル新らでホツクおけられた山崎君の犯人作り出しは、一才での大衆への関心を収めまほるフレームアツクであつたのであり、権力の捜査隊の最も狙つたのは、高尾道路路「鈴ヶ森」の斗いと兇守橋の斗いであつた。彼らの最も政治的におそれたのは、これであつた。だからこそ、我同盟への捜査は最も嚴重を極めたのである。それ故、10、8斗争のみならず、我同盟の政治的、組織的全体を洗つたため、今回の悪

らつ極まりない捜査を行つたのだ。

同志諸君！

細心の注意を払いつつも強力な同盟建設の体制を、ととのえよう！